

Lyra リラ・プレカリア 祈りのたて琴 Precaria

JELAは2006年4月から、病で苦しんでいる人や死にゆく人にハープと歌声で安らぎと慰めを与える奉仕者を養成するプログラム『祈りのたて琴:リラ・プレカリア』を開講します。

祈りのたて琴(リラ・プレカリア Lyra Precaria)は、健康上の、あるいは心の問題で悩み苦しむ方々を慰めるために、ハープと歌による生きた祈りを捧げることを意味します。病床で、あるいは悲嘆する人々のかたわらで生きた祈りを奏で、苦痛を共有し、心がなぐさめられるように奉仕する働きです。



リラ・プレカリア研修講座

2006年4月に開講するリラ・プレカリア研修講座は、18ヶ月間のボランティア養成プログラムです。この期間、受講生は各々の祈りの生活を深めながらハープと歌の技術指導を受け、さまざまな問題で悩み苦しむ方々へ生きた祈りをお届けする奉仕の訓練を受けます。ルーテル学院大学付属・人間成長とカウンセリング研究所が提供するカウンセリング講座を受講することにより、アクティヴ・リスニング(傾聴)の能力も高めます。

この研修講座の受講生は、週2日の授業の他に、ホームワークとして毎日最低3時間、祈りと音楽の訓練を行います。後半では、習得した技術による生きた祈りを、ホスピスや病院等の病床で実習する機会もあります。

リラ・プレカリア研修講座は、ハープにふれたことのない全くの初心者でも受講可能です。



社会への奉仕

社会への奉仕こそ「祈りのたて琴」プログラムの中心です。リラ・プレカリア研修講座の修了者は、ホスピスや終末ケア施設の病床にある方々、また健康上の、あるいは心の問題で苦しむ方々の傍らで習得したハープと歌による生きた祈りを捧げ、人々の苦痛を共有し、心がなぐさめられるように願って奉仕します。

キリストは、互いに顔を向け合う愛に満ちた社会へ、とりわけこの世の中で悩み苦しむ人々のもとへと私たちに招きます。助けを必要とする人々の中にキリストは存在するからです。

音楽には言葉ではなし得ない力があります。神様の愛で人々の心に触れる力です。

「祈りのたて琴」の働きを受ける人々に経済的負担は一切なく、完全な社会奉仕活動です。JELAは、ハープと歌による生きた祈りの派遣を希望する人たちと、リラ・プレカリア研修講座修了者との間のコーディネーターとしての役割を担います。

社会への教育活動

ハープと歌による生きた祈りの働きの意義は、まだ日本では十分に知られていません。キリスト教関係者にとどまらず、一般社会から幅広いご理解とご支援が得られるよう、JELAは今後、講演会、コンサート、文書活動等により、積極的にPR活動を展開します。





私は2003年12月に財団法人ライフ・プランニング・センター主催で行われた「祈りと音楽」の集いの中で、日本福音ルーテル社団に籍を置かれるCarol Sack 宣教師によるハープの演奏と歌のコンサートのプログラムを持ち

ました。

私は日本音楽療法学会の会長職を務め、日本において癒しの音楽による音楽療法の普及を計るとともに、国家による音楽療法士の身分法の法律を作るための努力をしています。

音楽は病む人間への癒しだけでなく、健やかな人の心をも支え、生きるエネルギーを高める大切な役割を演じるものと思っています。音楽療法の用いる楽器のうちハープの響きは心に静かに迫り、不安や悲しみを和め、生きる力を静かに高める不思議な力を私達に伝えるものと信じます。

日本福音ルーテル社団のこの方面の活動が日本の諸層の人々に広がることを私は期待するものであります。

聖路加国際病院理事長

(財)ライフ・プランニング・センター理事長
日野原 重明



キャロル・サックさんが「ハープと歌で看取りをしたい」と山谷のホスピスケア施設「きぼうのいえ」にいらっしゃったのは2003年の春でした。

終末の病床にある方の側でキャロルさんはハープを演奏し、静かに歌いながらしばらくの時間をその方と共有しました。何かを押し付けるのではなく、そっと寄り添う感性はホスピスケアにとって大切なことだと思います。

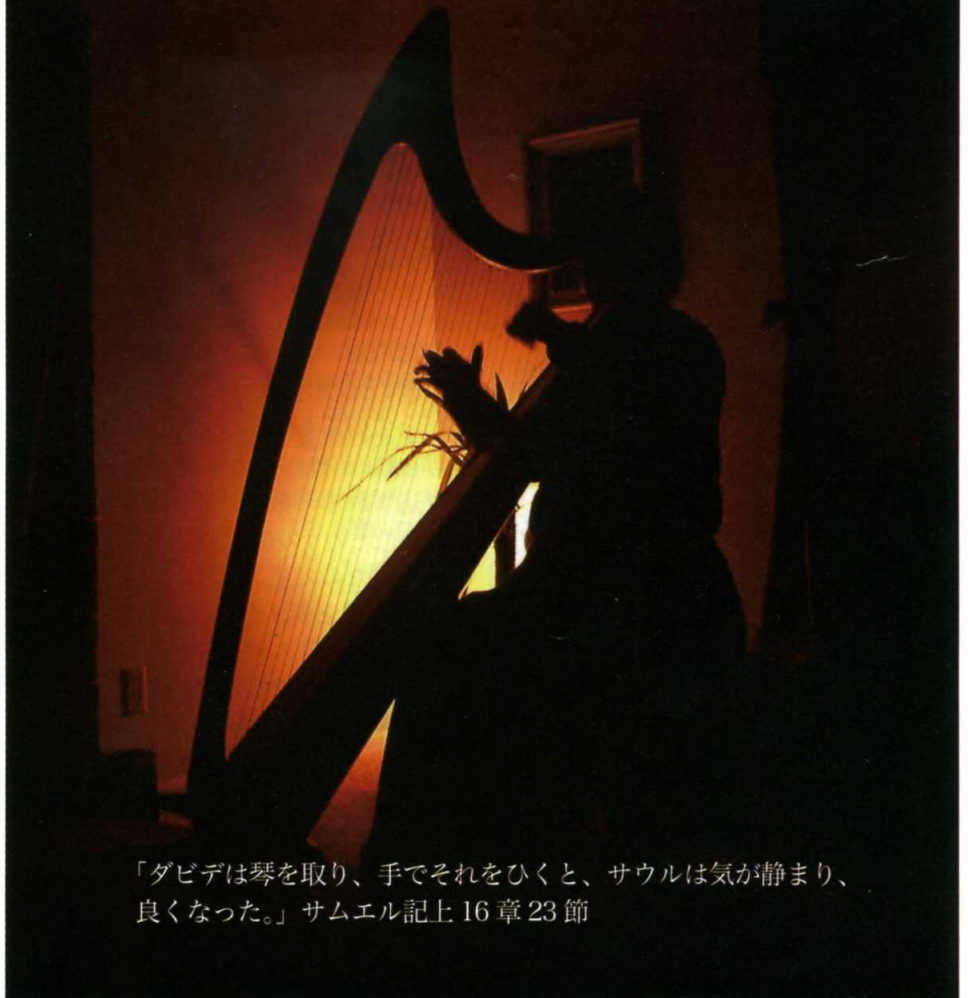
キャロルさんはこれまでここに住む10人以上の方にハープと歌の看取りのケアをしてくださいました。「これが成功したかは、お相手が眠ったかどうかでわかります。」この言葉がこのセッションの真髄を伝えていると思います。

日本福音ルーテル社団が進進する「祈りのたて琴」プログラムによって、皆様が人と人の交わりについて多くのことを得られますよう心から願い、祈っています。

きぼうのいえ施設長

山本雅基

言葉がなくても祈れるように 神様は音楽を下さった



「ダビデは琴を取り、手でそれをひくと、サウルは気が静まり、良くなった。」サムエル記上16章23節

盛況だったハープコンサートと講演会

『祈りのたて琴：リラ・プレカリア』を知っていたために、5月下旬に米国のハープセラピスト、クリスティーナ・トゥーリンさんをお招きし、講演会とチャリティコンサートを開催しました。トゥーリンさんは、このプログラムのコーディネータであるキャロル・サック姉が病院やホスピスでのハープ演奏の実践について米国留学時代に学んだ教師の一人で、多数のCDや著作を発表しているかたです。

講演会は5月28日(土)午前10時から東京・恵比寿のジェラ・ミッションセンターで開催され、とおく神戸から参加された方を含め70名以上の出席がありました。ハープの音階の特徴や分類、それぞれのかもし出す雰囲気や気分等について音色を実際に響かせながら解説され、ホスピスや病院での実践についても、スライドをまじえてわかりやすく説明がなされました。講演の後に十分な質疑応答時間がとられ、充実した1時間半となりました。

昼食後のチャリティコンサートは100名を超える来場者で満席のなか、アイルランド、ケルト、スカンジナビア等の珍しい曲やトゥーリンさんの自作曲

メドレーが静かにやさしく奏でられ、会場をなごやかな雰囲気包みました。後半では、演奏者の近くに置いてあった2台の小型ハープの前にハープ初心者の聴衆が招かれ、トゥーリンさんと一緒に日本の民謡やわらべ歌を合奏する楽しいシーンがありました。コンサート終了後も自由にハープに触れてよいなど、非常にくつろいだ催しでした。おおぜいのかたに楽しんでいただけたと思います。翌日も同様のコンサートが聖路加国際病院礼拝堂に場所を移して行われ、こちらも病院の患者さんを含めて約100名の出席がありました。両コンサートの収益は、日野原重明先生が理事長をされている財団法人ライフ・プランニング・センター関連のホスピス「ピースハウス」と、キャロル・サック姉がハープと歌声による看取りのケアの奉仕をしている東京・山谷の施設「きぼうのいえ」に捧げられます。

『祈りのたて琴：リラ・プレカリア』の講座内容等に興味をお持ちの方は、JELA 事務室までお問い合わせください。